

# ジャパン・ハウスの準備に携わる人々

## プロジェクト参加者紹介

### 原研哉

デザイナー。日本デザインセンター代表。武蔵野美術大学教授。ものの本質を見極め可視化するデザインを実践。日本の美意識を未来資源としてとらえている。2000年に『REDESIGN』、2004年には『HAPTIC』と題する展覧会を制作、日常や諸感覚に眠るデザインの可能性を示唆。2007、09年にはパリ・ミラノ・東京で日本の先端繊維の潜在力を表現する『TOKYO FIBER』展を、2009年には『JAPAN CAR』展をパリ・ロンドンで開催、2010年より未来産業のプラットフォーム『HOUSE VISION』の活動を始めている。2002年より無印良品のアドバイザリーボードのメンバー。長野オリンピック開・閉会式プログラムや、愛知万博2005年公式ポスターを制作するなど日本の文化に深く根ざした仕事も多い。『代官山蔦屋書店』や『武雄市図書館』のプロジェクトを担当している。2015年に『JAPAN HOUSE』の総合プロデューサーに就任。



### 隈研吾



サンパウロのジャパン・ハウス・プロジェクトの責任者である隈氏は、日本、中国、フランス、スイス、イギリス各国で作品を制作する国際的に著名な建築家。1990年に隈研吾建築都市設計事務所を設立。現在、東京とパリにスタジオを構える。1997年に東京大学工学部建築学科を卒業。現在は、母校の教授を務める。慶應義塾大学で博士(学術)の学位を取得。コロンビア大学(ニューヨーク)やイリノイ大学アーバナ・シャンペーン校(シカゴ)の客員教授を歴任した。著書、論文多数。建築に関する著作に通底するテーマは空間・建築・自然の関係性。主な作品に、中国美術学院民芸博物館(2015年)、ダリウス・ミヨー音楽院(2013年)、サニーヒルズジャパン(2013年)、梶原 木橋ミュージアム(2010年)や日本に現存する3つの内の一つ、[能舞台-トヨマの森(1996年)][森舞台 / 宮城県登米町伝統芸能伝承館(1996年)]がある。2015年12月、2020年開催の東京オリンピックの舞台となる日本の国立競技場案として、隈氏の案が採用された。

## 中前隆博

在サンパウロ日本国総領事。日本にゆかりの深いブラジル各界の著名人が名を連ねるジャパン・ハウス運営委員会の議長を務める。広島県出身。東京大学法学部を卒業後、外務省入省。在スペイン大使館、在メキシコ大使館、在イラク大使館、在アルゼンチン大使館で勤務したほか、OECD 代表部、国際連合代表部を経験。在ブラジル大使館公使を経て、2015年、在サンパウロ日本国総領事に着任。



## アンジェラ 多美子 平田



ジャパン・ハウス・ブラジル事務局長。国際ビジネスのコンサルタントとして、複数のブラジル企業とのブランディング戦略を経験。ブランド戦略を再構築するスペシャリストとして、HSM の招待で、アルゼンチン、イタリア、メキシコ各国で、フランス・フォード・コッポラやフィリップ・コトラ、ムハマト・ユヌスらと並び、講演を行ってきた。サンパウロアウパルガタスの理事として、Havaianas (アヴァイアーナス) の国際化を推し進める。2006 年から自身のマーケティングコンサルティング会社の先頭に立ち、ブラジルと他国間のビジネス交流を推進し、ルーツでもある日本でも活躍している。

## マルセロ・ダントス

ジャパン・ハウスのキュレーター兼企画ディレクター。ブラジル内外で多彩な活動を行うマルチ・クリエイター。芸術とテクノロジーの狭間を得意領域とし、五感を貫く体感型の博物館展示やプロジェクトを提供。サンパウロの「ポルトガル語博物館」、ピアウイ州のセラ・ダ・カピバラ国立公園にある「アメリカ人類博物館」、コロンビアの「カリブ博物館」、ベルリンの「民俗学博物館」とブエノス・アイレスの「Fundación Telefónica」で芸術監督を歴任。Banco do Brasil 文化センターの「Antes – Histórias da Pré História e Arte da África」やイビラプエラ国立公園の「オカ」で行われた「Invento – As Revoluções que nos inventaram」と「Água na Oca」も主導。Bill Viola, Tunga, Peter Greenaway, Jenny Holzer, Antony Gormley, Rebecca Horn と Anish Kapoor の展覧会を手がける。2010 年の上海万博とリオ+20 でブラジルの展示場のアートデ



イレクターも担当。リオのパブリックアート“Oir”を作り、複数のドキュメンタリーの監督も経験。ダンタス氏はニューヨーク大学で映画、テレビとインタラクティブテレコミュニケーションを学んだ。



#### ネリー・カイシェッタ

ビジネスと経済分野に造詣の深いジャーナリストとして、ジャパン・ハウスのメディア・コミュニケーション局長に着任。10年前、出版社 totum EXCELÊNCIA EDITORIAL を立ち上げ、ブラジル経済の国際化に照準を合わせた雑誌 PIB (ブラジルの国際的な存在感) をメインに発行。「サンパウロ新聞」、ロンドンの BBC ブラジルサービス、UPI 通信社、出版社 Abril の国際部、経済部に所属するなど、20年に渡る記者、編集長の経験がある。

#### 広報

Mayumi Orimoto | + 55 11 3285-3734 | 97274-3161 | [mayumi.orimoto@jhsp.com.br](mailto:mayumi.orimoto@jhsp.com.br)